5-9 東海・南関東地域における歪観測結果(1983年5月~10月) Observation of Crustal-Strains by Borehole Strainmeters in the Tokai and Southern Kanto Districts, May - October, 1983

> 気象庁地震予知情報課 Earthquake Prediction Information Division, Japan Meteorological Agency

第1図は埋込式体積歪計の配置図である。第2図から第4図までは、それぞれ1975年度設 置分の東海地域、1976年度設置分の南関東地域および1979年度設置分の東海地域における 歪変化の日平均値である。第5図(A)から(C)までは、1981年5月以後の歪変化の日平均値 を第1図に示した区域別に分けて図示したもので、これらには気圧補正を施してある。観測地 点名にCを付したのは気圧補正をした値である。第1区から第3区(網代を除く)までの資料 については榛原の気圧により、第4区から第6区までと網代の資料については富津の気圧によ り補正を行っている。第6図(A)から(F)までは1983年5月から10月までの歪変化の毎時値 を区域毎に示したものである。各観測点とも上側が気圧補正を施した値であり、下側はもとの 値である。地点名のカッコ内数字は設置年度を示す。各図の最下段には各区域内の気象官署で 観測された雨量を示してある。第5図(C)の東伊豆の値は第4図にみられるドリフトを除去し てある。

第6図(D)の大島では、6月はじめ頃から縮みの変化がやや急になり、この状態が10月はじ めまで続いたが、以後ほぼ平らになった。また大島ではこれまで小さなステップ変化がしばし ば発生していたが、10月1日に観測された2回の変化のあとなくなっている。このあと10月3 日には三宅島噴火に伴うマグニチュード6.2の地震が発生している。大島のステップ変化につ いては、別項の「大島の埋込式体積歪計で観測されたステップ状変化と周辺の地震活動との関 係」を参照。

同図の秦野では、8月8日の山梨・神奈川県境の地震による変化のあと顕著な縮みの変化が 続き、14日頃には台風による雨の影響もみられるが、20日頃急に伸びの変化に転じ9月末に はもとの状態に戻った。

第6図(C)の網代では、9月17日10時30分頃ステップ変化があり、それから約30分後の 11時5分に伊東沖でマグニチュード3.3の地震が起こった。



第1図 埋込式体積歪計配置図





Fig. 2 Secular variation of crustal-strains by borehole strainmeters in the Tokai District (daily mean values)



Fig. 3 Secular variation of crustal-strains by borehole strainmeters in the Southern Kanto District (daily mean values).



## 第4図 東海地域における埋込式歪計による歪変化(日平均値)

Fig. 4 Secular variation of crustal-strains by borehole strainmeters in the Tokai District (daily mean values).





Fig. 5 (A) - (C) Variation of crustal - strains by regions 1 - 6 shown in Fig. 1 in the Tokai and Southern Kanto Districts since May, 1981 (daily mean values). c: Values corrected by barometric pressure.











Fig. 6 (A) - (F) Variation of crustal-strains by region 1 - 6 shown in Fig. 1 in the Tokai and Southern Kanto Districts, May - October, 1983 (hourly values).





第6図つづき Fig. 6 (Continued)





第3区



















第6図つづき Fig. 6 (Continued)